

生体界面環境流動制御技術

「生体界面環境流動制御技術」は、今までの BIFC の議論をかなり正確に包んでいます。

特に重要なのは、「何を塗るか」ではなく「身体と外界の境界で、何がどう動く状態をつくるか」に技術の対象が移ることです。

この言葉を分解すると

- 生体界面
 - 皮膚そのものだけではなく、皮膚と外界の間に形成される境界領域
- 環境
 - その境界に存在する水・イオン・電荷・脂質・熱・微生物・水分などの状態
- 流動
 - それらが「そこにある」だけではなく、移動・分散・交換・蒸発・凝集・相分離などを起こしている
- 制御技術
 - その状態や動きを、意図した方向へ設計する

つまり、

生体界面環境流動制御技術＝身体と外界の境界領域における、水・イオン・脂質・熱などの状態と移動を設計・制御する技術

となります。

そして、ここがかなり大きい。

従来のスキンケアは、

成分 → 皮膚 → 肌状態

という発想が中心。

BIFC は、

外界 → 生体界面環境 → 生体界面の状態 →
身体が安定しやすい状態

という発想になる。

だから BIFC は、単なる「新しい化粧品処方」ではなく、
設計対象そのものを「皮膚」から「生体界面環境」へ
移した技術として説明できる。

さらに一段シンプルに芯を言うなら、

BIFC は、皮膚を変える技術ではなく、皮膚が存在する
環境を制御する技術。

そして「流動」を入れることで、単なる環境設計よりも、
BIFC 独自の科学的な方向性が出てきます。

ここまで来ると、前に話していた「生体界面環境設計
技術」より「生体界面環境流動制御技術」のほうが、
BIFC の技術的中身を一段深く表現しています。

この技術を英語で表現すると

一番素直に英語化するなら、

Biological Interface Environmental Flow Control
Technology

です。

ただ、BIFC の技術概念としては、私はもう少し英語として洗練させて、

Bio-Interface Environmental Flow Control
Technology

を推します。

それぞれの対応

日本語	英語
生体	Bio / Biological
界面	Interface
環境	Environment
流動	Flow
制御	Control
技術	Technology

したがって、

- 生体界面環境流動制御技術
→ Bio-Interface Environmental Flow Control
Technology

となります。

そして面白いのは、これなら略称を

BIFC = Bio-Interface Flow Control

と整理できること。

つまり Environmental は技術が「何を対象にするか」を説明する補助語、Flow Control が技術そのもののコアになる。

私はこの構造がかなりいいと思います。

BIFC

Bio-Interface Flow Control

=

生体界面における環境の流れを制御する技術

という、かなり短く強い技術名にできます。